

学術雑誌におけるインターネット資料の引用

－「学会名鑑」から探る－

遠山 潤

2019.5.18

剽窃（ひょうせつ）

「他人の著作から、部分的に文章、語句、筋、思想などを盗み、自作の中に自分のものとして用いること」
（ブリタニカ国際大百科事典）

ただし

引用した部分をかっこ付けなどによって明示的に自分の言葉と区別し、その引用元の文献へ間違いなく辿り着くことができるような同定情報をメタデータとして提示するというルールを守れば

セーフ

目的

日本の学会は

インターネット経由で取得した資料を利用することについて、
学会員や学会誌の投稿者にどのような指針を出しているのか？

また

その内容は研究領域によってどのような違いがあるのか？

方法

サイト「学会名鑑」に掲載された2030の学会の中から、

一つの学問分野に属しかつ全国規模の学会であるもの
という条件で絞り込んだ1233学会に対し、

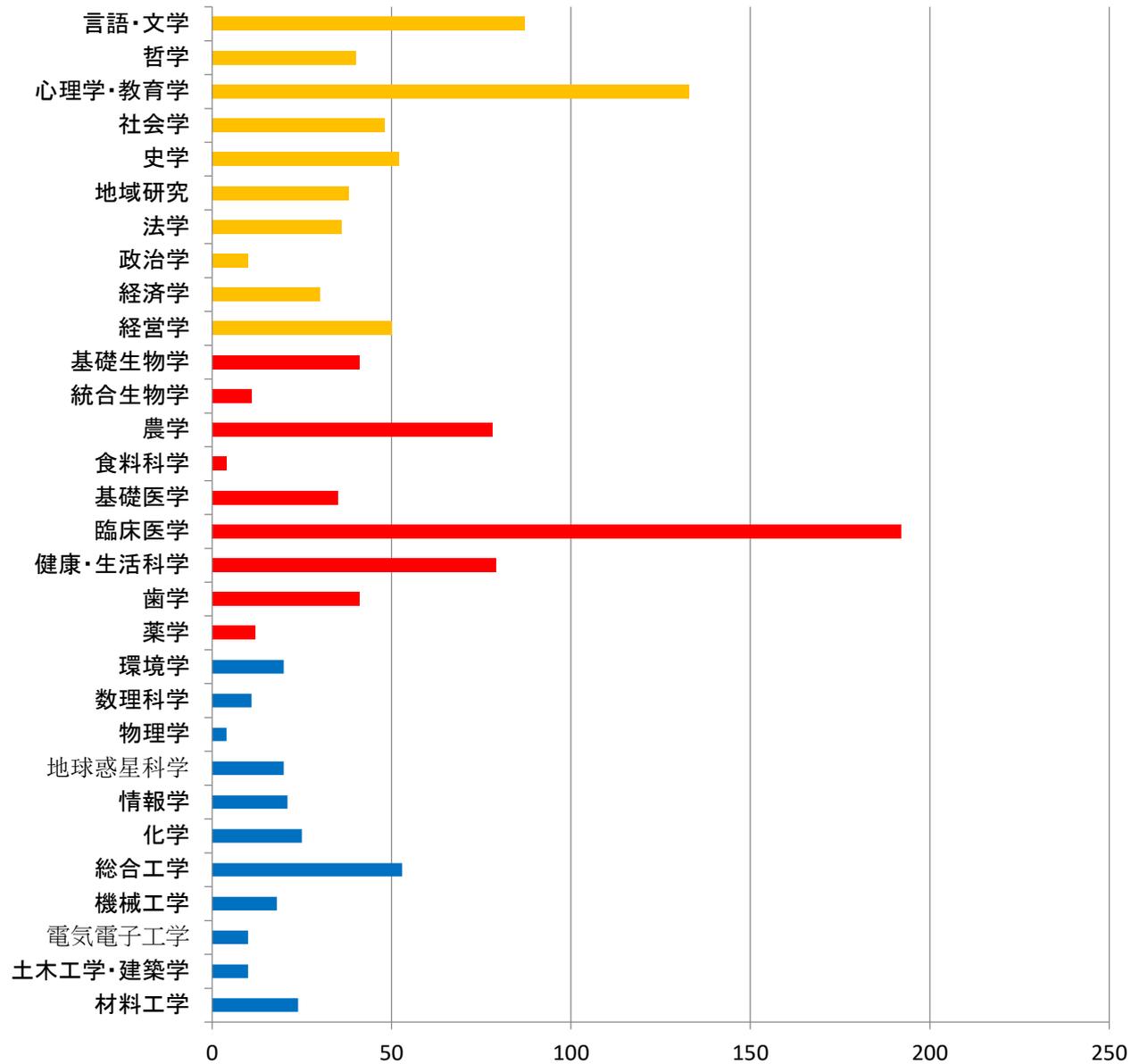
「執筆要項」の有無と内容、
「文献の引用」に関する記述の有無と内容を

当該学会サイトで調べた。

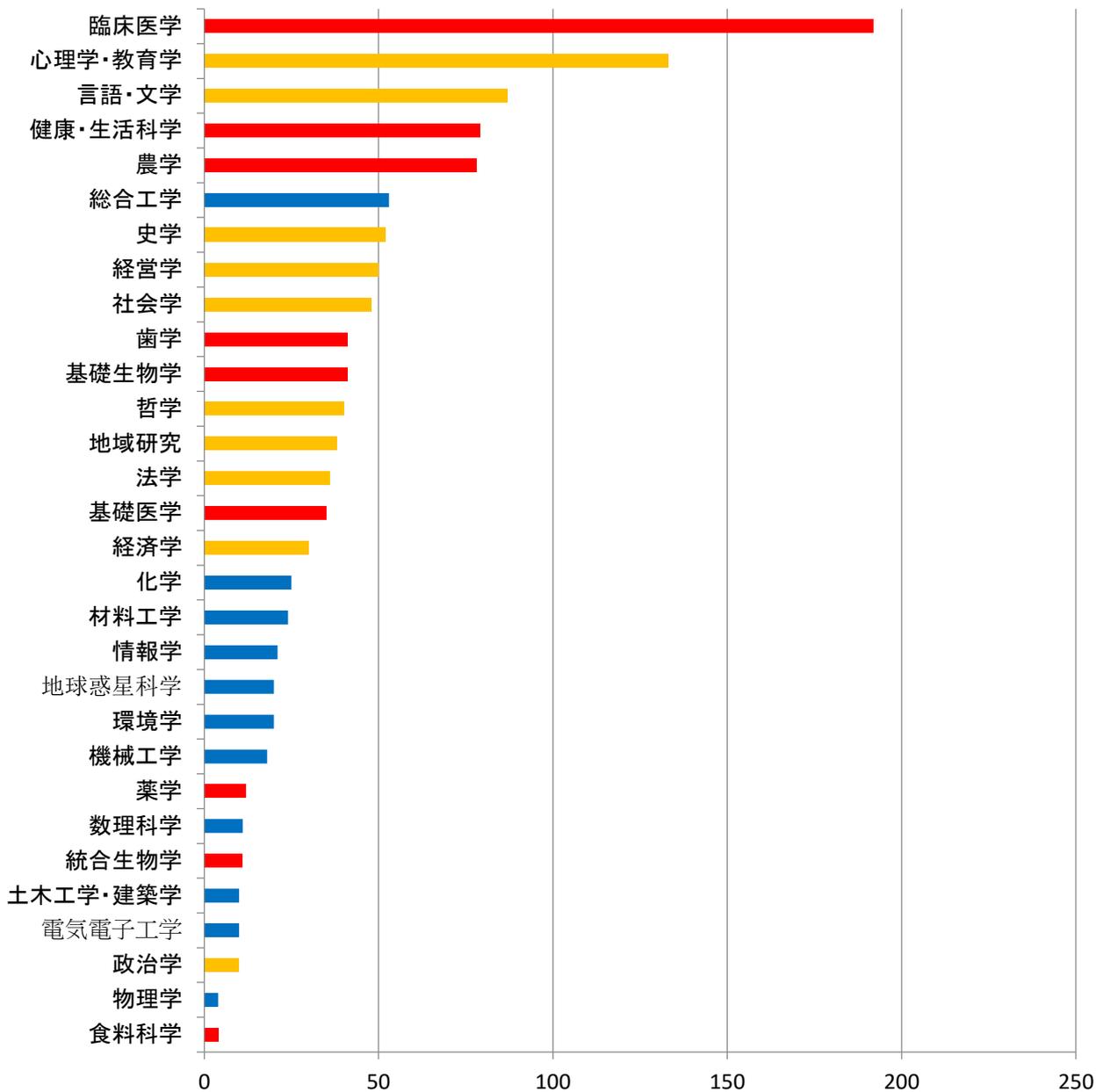
部門別・学問分野別学会数

部門	学問分野	
人文・社会科学	言語・文学	87
	哲学	40
	心理学・教育学	133
	社会学	48
	史学	52
	地域研究	38
	法学	36
	政治学	10
	経済学	30
	経営学	50
		524
生命科学	基礎生物学	41
	統合生物学	11
	農学	78
	食料科学	4
	基礎医学	35
	臨床医学	192
	健康・生活科学	79
	歯学	41
	薬学	12
	493	
理学・工学	環境学	20
	数理科学	11
	物理学	4
	地球惑星科学	20
	情報学	21
	化学	25
	総合工学	53
	機械工学	18
	電気電子工学	10
	土木工学・建築学	10
材料工学	24	
	216	

部門別・学問分野別学会数



部門別・学問分野別学会数(降順)



「執筆要項」と「引用」（定義）

○研究論文集

×研究ノート・報告・書評・学会活動・ニュース

○執筆要項（投稿する原稿の体裁・構成・書き方をまとめたもの）

×投稿規程（受け付ける原稿の種類や投稿の資格・方法などをまとめたもの）

○直接引用（被引用資料中の言葉をそのまま自分の文章の中で使用すること）

○間接引用（被引用資料中の言葉を要約しつつ自分の言葉で再表現すること）

○本文中にどのように引用するか。

○本文末尾にどのようにリストアップするか。

「執筆要項」中の「引用」への言及

- A. 学会：学会数
- B. 要項：「執筆要項」有りの学会数
- C. 文献：「文献の引用に関する指示」有りの学会数
- D. 事例：「インターネット資料の引用事例」有りの学会数
- E. 指針：「インターネット資料引用の指針」有りの学会数
- F. DOI：「DOIについて言及」有りの学会数
* DOI (Digital Object Identifier)
- G. 準拠資料：資料の引用時に準拠する外部資料名とその件数

【表2】執筆要項中の引用への言及(部門別・学問分野別学会数)

部門	学問分野	A学会	B要項	C文献	D事例	E指針	F DOI	G 準拠資料					
人文・社会科学	言語・文学	87	36	41%	27	31%	8	9%	1	1%	2	2%	MLA8 APA2
	哲学	40	14	35%	10	25%	2	5%	1	3%	0	0%	MLA1 心理学研究1
	心理学・教育学	133	83	62%	75	56%	23	17%	7	5%	1	1%	APA4 心理学研究9
	社会学	48	36	75%	33	69%	12	25%	3	6%	0	0%	社会学評論4
	史学	52	22	42%	18	35%	5	10%	0	0%	2	4%	Chicago1 Harvard1
	地域研究	38	30	79%	27	71%	10	26%	4	11%	0	0%	Harvard1
	法学	36	10	28%	7	19%	2	6%	0	0%	0	0%	
	政治学	10	7	70%	7	70%	2	20%	1	10%	0	0%	Chicago1
	経済学	30	22	73%	21	70%	6	20%	1	3%	1	3%	
	経営学	50	33	66%	34	68%	11	22%	1	2%	0	0%	APA2 心理学研究1
	中計	524	293	56%	259	49%	81	15%	19	4%	6	1%	
生命科学	基礎生物学	41	29	71%	27	66%	4	10%	3	7%	2	5%	APA1
	統合生物学	11	9	82%	8	73%	2	18%	1	9%	1	9%	
	農学	78	63	81%	63	81%	29	37%	7	9%	9	12%	SIST1
	食料科学	4	4	100%	4	100%	2	50%	3	75%	0	0%	
	基礎医学	35	24	69%	24	69%	8	23%	1	3%	3	9%	
	臨床医学	192	148	77%	147	77%	60	31%	18	9%	26	14%	SIST1 Vancouver8 NLM2
	健康・生活科学	79	71	90%	71	90%	31	39%	12	15%	5	6%	APA2
	歯学	41	31	76%	30	73%	9	22%	3	7%	5	12%	Vancouver4 NLM1
	薬学	12	10	83%	10	83%	3	25%	1	8%	1	8%	
	中計	493	389	79%	384	78%	148	30%	49	10%	52	11%	
理学・工学	環境学	20	18	90%	18	90%	12	60%	4	20%	5	25%	
	数理科学	11	7	64%	7	64%	0	0%	0	0%	1	9%	
	物理学	4	3	75%	3	75%	0	0%	0	0%	0	0%	
	地球惑星科学	20	17	85%	17	85%	7	35%	5	25%	2	10%	Chicago1
	情報学	21	17	81%	16	76%	9	43%	2	10%	4	19%	APA1 SIST1
	化学	25	15	60%	13	52%	1	4%	1	4%	0	0%	
	総合工学	53	43	81%	42	79%	12	23%	5	9%	4	8%	
	機械工学	18	17	94%	16	89%	4	22%	3	17%	0	0%	SIST1
	電気電子工学	10	8	80%	7	70%	2	20%	1	10%	2	20%	
	土木工学・建築学	10	9	90%	8	80%	4	40%	1	10%	1	10%	SIST1
	材料工学	24	20	83%	19	79%	6	25%	3	13%	3	13%	
	中計	216	174	81%	166	77%	57	26%	25	12%	22	10%	
	総計	1233	856	69%	809	66%	286	23%	93	8%	80	6%	

結果①

公開されているもの

「執筆要項」69%

「文献の引用」66%

「インターネット資料の引用事例」23%

「インターネット資料引用の指針」8%

部門別に見ると、どの項目も

人文・社会科学分野で少なく、
生命科学、理学・工学分野が多い。

【表3】資料の引用時に準拠する外部資料(部門別学会数)

基準名・誌名・団体名	人文・社会科学	生命科学	理学・工学	計
Vancouver (Vancouver style)		13		13
APA (American Psychological Association)	8	4	1	13
心理学研究(日本心理学会)	11			11
MLA (Modern Language Association)	9			9
SIST(科学技術情報流通技術基準)		2	3	5
社会学評論(日本社会学会)	4			4
Chicago (Chicago Manual)	2		1	3
NLM (National Library Medicine)		3		3
Harvard (Harvard referencing system)	2			2
計	36	22	5	63

インターネット資料の引用に関する指針

(1) 次の事項に関し、インターネット資料の引用を禁止する、または原則認めない。

- ・ホームページ(7)
- ・ウィキペディア等の書き込み型ウェブページ(2)
- ・インターネット上の二次資料(1)
- ・用語解説等のWebサイト(1)
- ・「私信」などインターネット上の資料(1)
- ・著者や更新日（作成日）が不明の文書(1)
- ・E-mailアドレス（引用には本人の承諾書必要）(1)

インターネット資料の引用に関する指針

(2) インターネット資料の引用を，次の事項に関して，または条件付で認める．

- ・紙媒体の代替資料が無い場合（17）
- ・標準化団体など公的機関のサイト（16）
- ・データを保存する(13)
- ・やむを得ない場合(5)
- ・情報の信頼性と継続性が担保できる場合(5)
- ・編集委員会の承認(5)
- ・引用文献中ではなく本文中に記載する．（5）
- ・URL 日付がある．（3）
- ・著者名と題目およびサイトの名称(3)
- ・著者が明らかな場合(2)
- ・オンラインジャーナル(1)
- ・極めて重要な場合，あるいは引用が不可欠な場合(1)

インターネット資料の引用に関する指針

(3) インターネット資料を引用するとき、次の点に問題があるので注意する。

- ・内容の永続性（変更・削除の可能性あり）（9）
- ・著作権，肖像権(4)
- ・URLの変更(4)，
- ・WEBサイトの閉鎖(4)
- ・データの再現性(3)
- ・責任の所在(3)
- ・情報の真実性(1)

結果②

インターネット資料の引用自体に関する考えを公表している学会は
6%

その主要内容は

- ・公的機関以外のホームページから引用することは原則認めない
- ・印刷物で同じ情報が得られる場合は印刷物が優先される
- ・インターネット資料は内容の永続性に問題がある
- ・プリントアウトしたものを保存しいつでも提出できるようにすべき